



令和6年度 あわら市福祉教育 プログラム集

社会福祉法人 あわら市社会福祉協議会



目次

「福祉教育」とは	2
プログラム集について	3
実施までの流れ	4
プログラム①「福祉ってどういうこと？」	5
プログラム②「ふだんの暮らしの中にいる人を知ろう」	6
プログラム③「地域でいっしょに交流しよう」	7
プログラム④「学校や市内のやさしいところを探そう」	8
プログラム⑤「赤い羽根共同募金ってなんだろう？」	9
プログラム⑥「バリアフリーとユニバーサルデザイン」	10
プログラム⑦「ボランティアってどんなこと？」	11
プログラム⑧「支え合いで災害にそなえる」	12
プログラム⑨「ふくしの仕事を知ろう」	13
プログラム⑩「ふくしをふりかえろう！」	14
その他	15
様式	16



「福祉教育」とは

福祉とは

「福祉のイメージは？」と聞かれたときに、どんなことを思い浮かべますか？障がい者や高齢者など、困っている人を助けるなどをイメージする方が多いのではないのでしょうか。

しかし、福祉は対象をこうした人たちと限定するものではありません。本会が福祉講座で説明する際は、「福」も「祉」もどちらも「しあわせ」という意味があること、福祉は「ふだんのくらしのしあわせ」と説明しています。福祉は一人ひとりが思う

「しあわせ」を実現するため、「ふだんのくらし」に関わる人たちと共に支え合っていくこととなります。（出典「漢検 漢字辞典 第二版」公益財団法人 日本漢字能力検定協会）

ふだんのくらしのしあわせ

では、「ふだんのくらし」の中にはどんな人がいるのでしょうか。家族、友だち、学校の先生、赤ちゃん、高齢者、外国にルーツがある人、障がいのある人やない人、そして自分を含めた様々な人が、共に暮らしています。

「ふだんのくらしのしあわせ」を実現するためには、地域に暮らしている人たちと、共に生き、共に学び、共に考える力を育むことが重要です。そのための学びが福祉教育なのです。

共に生きる力を育む

あわら市の教育に関する大綱（第二次）では「ふるさとあわらを愛し、一人一人が夢や希望を持ち個性が輝く教育」を基本理念としています。また、「一人では解決できない事があっても、様々な人々と協力しながら乗り越えていける、生きる力を育む教育の推進を図ります。」とも書かれています。さらに、あわら市の第2次教育振興基本計画の基本方針1・施策2の中には、取組みとしてボランティア活動や福祉体験活動について記載されています。同じ地域に住む人と共に生きる力を育むという考え方は福祉教育も同じです。

子どもたちを取り巻く環境が目まぐるしく変化している中、学校と地域と本会が連携し、子どもたちが地域と共に生きていけるように福祉教育を推進することは重要な取組みであると言えます。

プログラム集について

福祉教育の参考に

福祉教育って何をすればいいの？と悩まれる先生は多いと思います。このプログラム集は実際に本会が学校の福祉教育で行っている講座等を掲載しています。カリキュラム作成の参考となれば幸いです。

組み合わせ自由

福祉教育は必ずこれ！といったものはありません。子どもたちが何を学びたいのか、子どもたちに何を学んでほしいのかによって、様々なプログラムを組み合わせることができます。また、プログラムを複数取り入れることで、より学びが深まります。

体験学習だけでは

福祉教育というと、車イスやアイマスク、インスタントシニアといった疑似体験を中心に取られることがあります。しかし、疑似体験のみの学習では、「大変だ」「かわいそう」といった相手に同情するようなマイナスの部分だけが強く印象に残り、福祉を他人事だと捉えてしまうことにつながりかねません。

子どもたちが他人事としてではなく、自分の事として考えることができる学習にするためには、同じ地域に住んでいる当事者の方と共に学ぶことが大切なポイントです。疑似体験を行う場合には、事前の学習として当事者から日常生活のことを聞いたり、一緒に活動したりするプログラムもあわせてオススメです。

年齢や発達に応じて

年齢によって福祉教育の目標は違います。同じプログラムでも、子どもの年齢や発達段階に応じたねらいや内容に組み立てて提供します。

その他、掲載しているプログラム以外も対応可能ですので、お気軽にご相談ください。



実施までの流れ

1 本会へ依頼

- ・実施の希望日や内容をお伝えください。
- ・希望日の1カ月前までにご相談ください。
- ・9月から11月は、派遣の依頼が集中します。状況によっては実施時期の変更をお願いすることがあります。

2 事前打合せ

- ・子どもたちが福祉を学ぶにあたり、目的やねらいを先生と本会と一緒に考えます。
- ・先生が子どもたちにどんなことを学んでほしいのか社協へお伝えください。
- ・目的やねらいにあわせたプログラムを先生と本会とで組み立てていきます。
- ・内容やクラス数、人数によって時間がかかる場合があります。
- ・学校に準備をお願いするものは事前にお伝えします。

3 依頼文、借用書などを本会や講師へ送付

- ・本会への依頼文は様式をご利用ください。
- ・本会職員への講師料は不要です。
- ・手話講座等の講師は講師料や資料代が必要になる場合があります。

4 実施

- ・感染症対策を行いながら実施します。
- ・ケガや事故のないよう注意を払います。
- ・子どもたちだけでなく先生もぜひ参加してください。

5 振り返り

- ・学習が終了したあとに子どもたちの振り返りをお願いします。本会も振り返りまで関わります。
- ・子どもたちが学習する前と後で考え方がどう変わったか、今後自分たちでできることはなにか等を考えることで、より学びが深まります。
- ・今後の参考のため、先生から本会へ子どもたちの学習の感想をお伝えいただければ幸いです。

プログラム①

「福祉ってどういうこと？」

学習のねらい

福祉は「ふだんのくらしのしあわせ」という特別なことではなく誰もが関係することと認識し、自分や自分以外の人へのしあわせを実現するためにできることは何かを考える。

参加人数 クラス単位

講師 本会職員

場所 教室等

- 内容
- 1 福祉とは何か、大切なことは何か等の話を聞く
 - 2 あわら市のバリアフリーの写真を参考に、自分たちができることを考える
 - 3 福祉に対する考え方について、学習する前と後で変化があったかどうかなどを振り返る



時間	プログラム	内容	準備物
45～50分	事前学習	<ul style="list-style-type: none">・自分が思う福祉のイメージを書き出す・福祉について調べる	
45～50分	講話	<ul style="list-style-type: none">・福祉についての話を聞く・物のバリアフリーと心のバリアフリーについて話を聞く・自分ができることを考える・話を聞いて福祉のイメージは違ったか同じだったか振り返る	学校: プロジェクター、スクリーン 社協: パソコン



- ・物と心のバリアフリーをもっと調べてみる
- ・自分の他にあわら市に住んでいる人の「ふだんのくらしのしあわせ」をインタビューする

プログラム②

「ふだんのくらしの中にいる人を知ろう」

学習のねらい

様々な当事者の方から話を聞き、自分たちの地域にどんな人が暮らしているのかを知る。その方が持つ知識や経験を知ること、敬う気持ちを育み、思いやりのある行動について考える。

参加人数 クラス単位

講師 本会職員、学校区域に住んでいる方（高齢者、障がい者、子育てしている人等）

場所 教室等

- 内容
- 1 高齢者や障がい者、子育て世代等のゲストティーチャーを招き、児童や生徒が知りたいこと、疑問に思っていることをインタビューする
 - 2 インタビューの気づきや学びをまとめ、自分にできることを考える



時間	プログラム	内容	準備物
45～50分	事前学習	<ul style="list-style-type: none">・年をとることや障がい等について、自分が持っているイメージをまとめる・ゲストティーチャーに聞きたいことをまとめる	
45～90分	講話 インタビュー	<ul style="list-style-type: none">・インタビュー形式でゲストティーチャーの話を聞く・すごいな、大変だなと思った話を振り返り、自分にできることを考える	学校: プロジェクター、スクリーン 社協: パソコン

こんなこともできます
発展学習
ご相談ください

- ・ゲストティーチャーに感想を伝える
- ・ゲストティーチャーが活動、参加している場所を見学する

プログラム③

「地域でいっしょに交流しよう」

学習のねらい

あわら市に住んでいる方が普段どのような暮らしをしているのかを知る。交流を通し、自分自身も地域の一員としてできる役割に気づき、地域への関心と思いやりを持つ。

- 参加人数 5人～クラス単位（訪問場所によって人数制限があり、グループごとの訪問になる場合あり）
- 講師 本会職員、学校区域に住んでいる方（高齢者、障がい者、子育てしている人、ボランティア等）
- 場所 学校区域の公民館、区民館 等
- 内容 1 プログラム②のゲストティーチャーが普段暮らしている場所に訪問し、見学や交流をする
2 交流を楽しむための声かけや聞き方等できることを考え、実践する



時間	プログラム	内容	準備物
45～50分	事前学習	<ul style="list-style-type: none">・交流する際に一緒に楽しめる内容を考える・相手の人と話をするときに行えることを考える	
60分	交流会	<ul style="list-style-type: none">・訪問した場所ではどのような活動が行われているか話を聞く・一緒に楽しむために考えたことを実践する・交流して感じたことをまとめる	学校：事前学習で決めたレクリエーションの物品



- ・交流した人に手紙を書いてみる
- ・交流を継続して行う
- ・他にも地域で活動する場所があるか調べてみる

プログラム④

「学校や市内のやさしいところを探そう」

学習のねらい

疑似体験を通して、学校や地域にあるバリアについて理解をするとともに、誰もが安心して暮らせるまちづくりについて考える。

- 参加人数 10人～クラス単位（体験用具の数に限りがあり、グループごとの体験になる場合あり）
- 講師 本会職員、学校区域に住んでいる方（高齢者、障がい者、子育てしている人等）
- 場所 学校内、学校区域内の道路や建物 等
- 内容
- 1 疑似体験で障がいや年をとることによる変化を学び、その中で当事者の方ができること、工夫をしていること、困難なことに気づく
 - 2 市内にある段差などのバリアの発見とともに、スロープなど工夫されている点に気づき、自分にできる思いやりのある行動や工夫を考える



時間	プログラム	内容	準備物
45～50分	事前学習	<ul style="list-style-type: none">・体験する場所について調べる・その場所のみんなにやさしい点を見つける	
45～100分 ※参加人数によって時間が変わります	体験学習	<ul style="list-style-type: none">・体験の中で身体の変化や違い、同じところを知る・操作や装着の方法を学ぶ・バリアフリーについて知る・体験からみんなにやさしい点や工夫できる点をまとめる	学校: プロジェクター、スクリーン 社協: パソコン、体験用具

こんなこともできます
発展学習
ご相談ください

- ・物と心のバリアフリーをもっと調べてみる
- ・自分の他にあわら市に住んでいる人の「ふだんのくらしのしあわせ」をインタビューする

プログラム⑤

「赤い羽根共同募金ってなんだろう？」

学習のねらい

赤い羽根共同募金の「じぶんの町を良くするしくみ」を学び、地域の中の様々な活動に活用されていることを知る。自分の住む地域を良くするためにできることを考える。

参加人数 クラス単位

講師 本会職員、共同募金配分を受け活動している団体

場所 教室等

- 内容
- 1 赤い羽根共同募金についてクイズ形式で目的や募金方法、使い道等を知る
 - 2 共同募金の助成を受けながら活動している福祉団体から話を聞く
 - 3 地域を良くするためにできる募金の活用方法を考え、話し合う



時間	プログラム	内容	準備物
45～50分	事前学習	・赤い羽根共同募金について知っていることや調べたことを話し合う	
45～50分	講話	・赤い羽根共同募金のしくみについて話を聞く ・募金を使って自分の地域を良くするためのアイデアを考え、発表する	学校: プロジェクター、スクリーン 社協: パソコン

こんなこともできます
発展学習
ご相談ください

- ・市内で実施している募金運動に参加する
- ・市内で募金が使われているところを調べ、マップを作る

プログラム⑥

「バリアフリーとユニバーサルデザイン」

学習のねらい

様々な人が生活する中で、誰もが安心して暮らせるためのバリアフリーとユニバーサルデザインのしくみやSDGsとの関連について学び、相手を思う気持ちが込められた取組みを考える。

参加人数 クラス単位

講師 当会職員

場所 教室等

- 内容
- 1 バリアフリーとユニバーサルデザインとはどんなものか、その違いについてあるのかを知る
 - 2 身近なユニバーサルデザインについて、実際に見て触れる
 - 3 SDGsとユニバーサルデザインの関連について知る



時間	プログラム	内容	準備物
45～50分	事前学習	・バリアフリーやユニバーサルデザインについて調べる	
45～50分	講話	・バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを知る ・ユニバーサルデザイングッズに触れる ・SDGsとユニバーサルデザインの関連を知る	学校: プロジェクター、スクリーン 社協: パソコン、ユニバーサルデザイングッズ



- ・みんながつかえるユニバーサルデザイングッズを考える
- ・ユニバーサルデザインの建物や場所を見学する

プログラム⑦

「ボランティアってどんなこと？」

学習のねらい

「ボランティア活動は、より良い地域や社会づくりのために自らすすんで取り組む活動である」ということを学ぶ。あわら市内で行われている活動を知ること、自分ができるボランティアに取り組むきっかけをつくる。

参加人数 クラス単位

講師 本会職員、あわら市内でボランティア活動をしている人

場所 教室 等

- 内容
- 1 ボランティアの役割や活動について知る
 - 2 あわら市内のボランティア活動について実際に活動している人から話を聞く
 - 3 自分ができるボランティア活動について考え、話し合う



時間	プログラム	内容	準備物
45～50分	事前学習	<ul style="list-style-type: none">・ボランティアの種類を調べる・自分がイメージするボランティア活動を書き出す	
45～50分	講話	<ul style="list-style-type: none">・ボランティアの役割や4つの原則を知る・市内のボランティアから活動について話を聞く・自分が活動してみたいボランティアについて考える	学校: プロジェクター、スクリーン 社協: パソコン

こんなこともできます
発展学習
ご相談ください

- ・自分たちができるボランティア活動を考え、実践する
- ・市内のボランティア活動を見学する

プログラム⑧

「支え合いで災害にそなえる」

学習のねらい

災害はいつ起こるか予測はできないが、日ごろから地域にどのような人が住んでいるかを把握していることで避難がスムーズになることを知る。災害にそなえて自分が日ごろからできる行動を考える。

参加人数 クラス単位

講 師 本会職員

場 所 教室 等

- 内 容
- 1 災害が起きて避難する際に、声かけや支援が必要な人がいることを知る
 - 2 災害により避難する時や避難所での困りごとを考える
 - 3 支援が必要な人に対し、自分にできることや地域の人達と一緒にできることについて考える



時 間	プログラム	内 容	準 備 物
45～50分	事前学習	・災害で避難する時や避難所での困りごとを考える	
45～50分	講話	・災害時の避難のしくみについて知る ・高齢者や車いすの人など避難方法や避難所で困る人がいることを知る ・起こりうる困りごとを考え、自分ができるところを考える	学校: プロジェクター、スクリーン 社協: パソコン



- ・見守り防災マップをクラスでつくる
- ・避難する際の声かけや支援を地域の人と一緒に実践する

プログラム⑨

「ふくしの仕事を知ろう」

学習のねらい

「ふくし」に関わる仕事について学ぶ。多様な福祉の仕事があり、様々な人が福祉に関わっていることを知る。あわら市内外にある福祉の仕事に触れることで、自分が将来就く仕事のことを考えるきっかけをつくる。

参加人数 クラス単位

講師 本会職員、市内外の福祉施設職員、福祉に関わる方

場所 教室 等

- 内容
- 1 福祉の仕事について知る
 - 2 あわら市内外で福祉に関わって働いている人から話を聞く
 - 3 知った仕事をふまえ、自分の将来について考え、話し合う



時間	プログラム	内容	準備物
45～50分	事前準備	<ul style="list-style-type: none">・福祉の仕事について調べる・どんな仕事を知りたいかクラスで話し合う	
45～50分	講話	<ul style="list-style-type: none">・福祉の仕事について実際に携わっている人から話を聞く・たくさんの職種が地域や人と関わっていることを知る	学校: プロジェクター、スクリーン 社協: パソコン

こんなこともできます
発展学習
ご相談ください

- ・話を聞いた仕事以外にどのような仕事があるかさらに調べてみる
- ・福祉の仕事を見学、体験する
- ・福祉のボランティアに参加する

プログラム⑩

「ふくしをふりかえろう！」

学習のねらい

今年度行った「ふだんのくらしのしあわせ」について知ったことや気づいたことをあらためて振り返る。また、地域の一員として今の自分たちにできること、今後やってみたいことは何かを考える。

参加人数 クラス単位

講師 本会職員

場所 教室等

- 内容
- 1 今年度に福祉について経験したことを振り返る
 - 2 経験した中で知ったこと、気づいたことをまとめる
 - 3 今後に向けて、地域の一員として地域のためにできること・やってみたいことについて考える



時間	プログラム	内容	準備物
45～50分	事前準備	・今年度どのようなことを経験したか、また感想や気づいたことをまとめ、発表の準備を行う	学校:タブレット
45～50分	発表	・発表を行う ・それぞれの発表について感想を伝え合う ・今の自分にできること、今後やってみたいことを話し合う	学校:プロジェクター、スクリーン、タブレット



- ・保護者や今年度知り合った地域の人に発表する
- ・地域の人達に学んだことについて手紙を書く
- ・今後地域のためにやってみたいことをチャレンジする

その他

こんなプログラムも実施しました



障がい者スポーツ体験

車イスユーザーの方を講師に迎え、ボッチャを体験しました。ボッチャについて説明を聞き、「ランプ」と呼ばれる投球補助具を使って選手とアシスタントにチャレンジしました。楽しみながら障がい者スポーツについて知ることができました。



3年生に向けた報告会

4年生が3年生に向けて福祉教育の報告会を行いました。「来年にはこんな福祉勉強するよ」と先輩としてあたたかいメッセージを送りました。最後に振り返りを行うことで、学んだことをより深めることができました。



先生からの感想

高齢者と交流したり、体験をしたりすることで、年をとり身体の変化があることを知る一方、年をとっても生活の中に楽しみや生きがいをもって活動していることを知ることができました。



社協に相談をしながら取り組みました。様々なプログラムに関わることで、児童は初めて知る事が多く、充実した時間となりました。クイズ形式で理解を深めたり、大変わかりやすく進めてもらえました。



様 式

コピーしてご利用ください。

社協のホームページからダウンロードもできます。

(<http://awara-shakyo.or.jp/download/download.html>)

- ・講師派遣依頼書
- ・備品等借用申請書兼借用書

(講師派遣依頼文)

令和 年 月 日

社会福祉法人
あわら市社会福祉協議会
事務局長 様

学校

校長

福祉教育の講師について（依頼）

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、このたび当校では、みだしの学習を開催いたします。
つきましては、下記のとおり貴下職員を講師として派遣いただきますようお願い申し上げます。

記

1 日 時 令和 年 月 日 () 時 分～ 時 分

2 会 場

3 対 象 年生 人 (クラス)

4 依頼内容

5 担当教員

6 その他

(備品借用書)

事務局使用欄 入力済み

様式第1号 (第2条関係)

会長	局長	課長	担当者	受付	年	月	日	
/	/			返納	年	月	日	

備品等借用申請書兼借用書

申請者住所			
申請者氏名		電話番号	
※使用者住所			
※使用者氏名		※電話番号	

※印の欄は、申請者と使用者が同じ場合、記載不要です。(例：同居なら名前だけ記載)

下記の通り借用したいので申し込みます。

機器・物品名 及び数量	物品名	数量	物品番号
借用期間	年 月 日 ~ 年 月 日		
使用目的			

上の欄に書ききれない場合は、別途一覧表を添付してください。

1 承認	2 不承認
------	-------

<MEMO>

ホームページ



Facebook



Instagram



＼ FOLLOW ME !! ／



あわら市社会福祉協議会マスコットキャラクター
はるちゃん

発行 令和6年4月

発行者 社会福祉法人 あわら市社会福祉協議会

〒919-0621

あわら市市姫二丁目31-6

いきいきテラスいちひめ（市姫荘）内

☎TEL 73-2253

✉Mail chiiki@awara-shakyo.or.jp